

ベトナムの考古文化(3)

——新石器時代前期——

訳・解説 菊池 誠 一

はじめに

本稿は、ハノイ国家大学人文社会科学大学歴史学科の教科書であるベトナム語本 *CO SO KHAO CO HOC* (2008) (『考古学の基礎』) の翻訳である。『学苑』No.833に掲載された「ベトナムの考古文化(2)」のつづきで、下記の第2部第1章3-2.にあたり、新石器時代をあつかい、その前半部分である新石器時代前期を訳出する。

- 第2部 第1章 2-1. 前期旧石器時代 (グエン・カック・スウ著)
- 同 2-2. 後期旧石器時代 (グエン・カック・スウ著)
- 同 3-2. ベトナムの新石器時代 (ハン・ヴァン・カン著)
- 第2部 第2章 2-1. ベトナム北部の青銅器時代 (ラム・ティ・ミィ・ズン著)
- 同 2-2. ベトナム中部の青銅器時代 (ラム・ティ・ミィ・ズン著)
- 同 2-3. ベトナム南部の青銅器時代 (ラム・ティ・ミィ・ズン著)
- 第2部 第3章 2-1. ベトナムのドンソン文化 (ホアン・ヴァン・コアン著)
- 同 2-2. ベトナムのサーフィン文化 (ホアン・ヴァン・コアン
／ラム・ティ・ミィ・ズン著)
- 同 2-3. ベトナム南部の初期鉄器文化 (ホアン・ヴァン・コアン著)
- 第2部 第4章 ベトナムの歴史考古学
(グエン・チュ／ホアン・ヴァン・コアン／グエン・スオン・マイ／
ラム・ティ・ミィ・ズン／ハン・ヴァン・カン著)

なお、ベトナム語を表記するにあたって声調記号と発音記号を省略し、訳出にあたっては意識した箇所もあることをおことわりしておく。

第2部 第1章 3 ベトナムの新石器時代

2. 新石器時代前期

考古学者たちは100年余の研究を経て、ベトナム新石器時代の大綱を組み立て、3つの発展段階、つまり考古文化を確立し、全土における新石器時代の居住空間を明らかにした。

ベトナムの新石器時代はアジアの先史時代のなかでも早くから胎動し、フランドリア海進と環境変動の影響をうけた。

「新石器革命」は森林や海岸平野部などの異なる環境条件のなかで発生した。新石器化の過程はフランドリア海進の時代であり、直接あるいは間接にその影響を受けることになった。

新石器時代人は、石器製作技術（磨き、擦り切り、穿孔、柄など）の創造、あるいは改善をした。そして、環境に適応し、あるいは克服しながら、多くの手工業（石器製作、土器製作、織物、木工など）を生みだし、発展させた。そして採集活動を多様化（狩猟、採集、漁労、農業、飼育）した。ベトナム新石器時代人の物質的・精神的活動は考古文化の発展段階に具体的に表現されている。

ベトナムにおける新石器時代前期に属する文化は、ホアビン（Hoa Binh）文化、ソイニュ（Soi Nhu）遺跡グループ、バクソン（Bac Son）文化である（図1）。



図1 ホアビン文化の遺跡分布範囲（●）
バクソン文化の遺跡分布範囲（●）

ホアビン文化

マドレーヌ・コラニー（M. Colani）はホアビン文化の存在を最初に確認した人物で、1932年にハノイで開催された第1回極東先史会議でホアビン文化を提唱した。そのため、ホアビン文化はおよそ80年にわたる研究の歴史がある。

ホアビン文化の領域はかなり広く、ホアビン省のほか、タインホア（Thanh Hoa）、ゲアン（Nghe An）、クアンビン（Quan Binh）、クアンチ（Quang Tri）、ライチャウ（Lai Chau）、ソンラー（Son La）、ハジャン（Ha Giang）、ニンビン（Ninh Binh）の各省におよぶ。遺跡の分布密度は同じではないが、最も多く確認されているのがホアビン省の72遺跡であり、タインホア省の32遺跡がそれにつづき、他の省は多くはない。

ホアビン人の大半は石灰岩山地帯の洞穴や岩陰に居住した。ホアビン人はグループごとに居住し、各グループは3～10遺跡で構成され、谷間のカースト地形に分布する。ホアビン人が居住した谷間には、水の確保や道具作りの石材、食料を獲得しやすい大小の溪谷がある。

洞穴や岩陰は、谷間よりも10～20 mほど高い位置にあり、入り口は、東北の風雨を避けるために東南、あるいは日光を避けるために西北を向いていた。各洞穴の面積は、およそ50～150 m²である。遺跡は洞穴が大多数を占めており、野外遺跡では唯一、ソンラー省のサップ・ヴィエット（Sap Viet）遺跡が知られている。

ホアビン文化の各遺跡の文化層は、貝殻や獣骨、炭化物、人骨、そして石器を含んだ石灰質の粘土層である。文化層は遺跡によって0.5～2 mほどの厚さの違いがある。ひとつの文化層だけの遺跡が

大半であるが、コンモン（Con Moong）遺跡のように多くの文化層をもつ遺跡も知られている。

ホアビン文化層中では獣骨は少なく、主要なものは貝殻、陸生や水生のタニシ類である。獣骨ではサル、ゴリラ、イノシシ、ヤギウ、サイ、スイギュウ、シカ、ヤマアラシなどの骨が出土している。すべてが野生の獣骨であり、馴致された動物の骨は未検出である。

植物遺体はさらに少ない。果実種の分析と花粉分析は6遺跡で実施された。鑑定できたのは、カンランやヤシ、ホルトノキ、コミカンソウなどである。ホアビン文化内では、50種類以上の異なる花粉が確認されているが、まだ栽培植物の存在は証明されていない。

ホアビン文化では、墓址の確認もたいへんに少なく、15遺跡から33体の人骨が出土しているだけである。洞穴の壁際や炉址の近くに埋葬され、遺体は屈葬、あるいは伸展葬である。墓の周囲に石を置き、あるいは貝殻・炭化物を散布している場合がある。副葬品は石器、貝装飾品、あるいは獣歯である。墓に赤土を散布しているのが一般的である。

炉址の確認は少なく、まだ十分な研究がなされていない。大部分は1mほどの大きさであり、中央が深く周辺は浅い掘りこみである。炭化物層には貝殻や獣骨がみられる。

ホアビン文化の芸術痕跡はたいへん少ない。ドンノイ（Dong Noi）の洞穴壁画のほかに、石や骨に線刻された葉や動物像が若干ある。ホアビン文化ではまだ芸術が発展していなかった。

ホアビン文化の突出した特徴は石器である。ホアビン人は川原石を採取し、その場で石器製作をおこなった。石器はその器種により石材が異なり、安山岩、流紋岩、玄武岩などがある。石器製作の普遍的技術は打割であり、片面加工が主流である。磨製技術は出現しているが、普及していない。ホア



写真1 ホアビン文化の石器



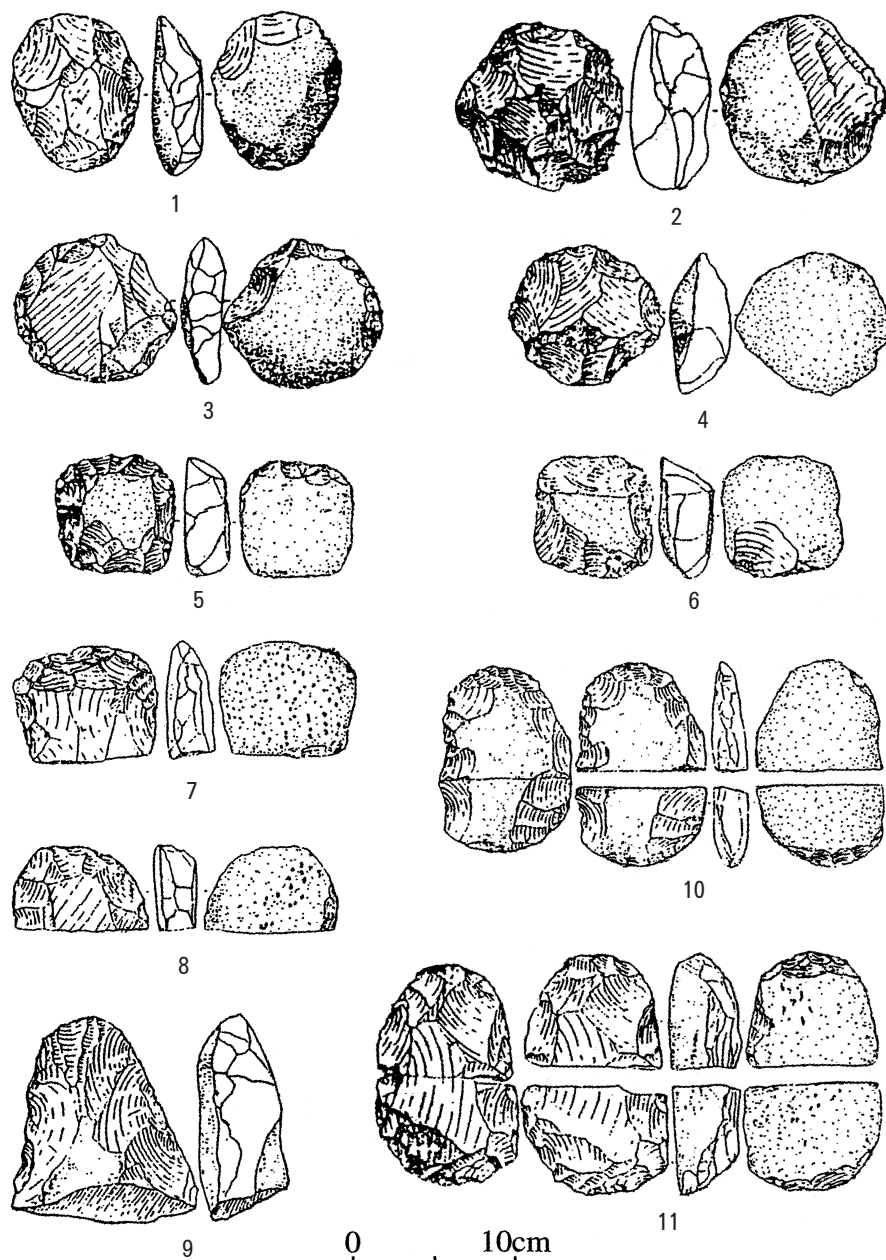
写真2 ホアビン文化の刃部磨製石器

ビン文化の石器は、杏仁形や三角形、皿形、楕円形、短斧、斧形のようなものが代表的であり、これらは石核、あるいは破片から片面加工で製作された（写真1・2、図2）。短斧は礫の半分から作られる。長斧は楕円形礫の2/3を使う。刃部磨製石器は楕円形、三角形、長方形、不定形の異なる形態がある。ほかに、製作痕はないが、使用痕のある石杵、石皿などもある。

骨製品や貝製品はたいへん少なく、130遺跡中35遺跡で見つかり、骨製や貝製の斧、鏃など253点が知られている。骨製品は注意深く丁寧に削られ、磨かれている。

土器は少なく、50遺跡で1900片ほどが検出された。これらは、ホアビン文化層の上層で見つかることが多い。そのため、ホアビン文化に伴う土器なのか、まだ確定できていない。

ホアビン文化はソンヴィー文化を起源とし、その年代は18,000～7,500 BPである。



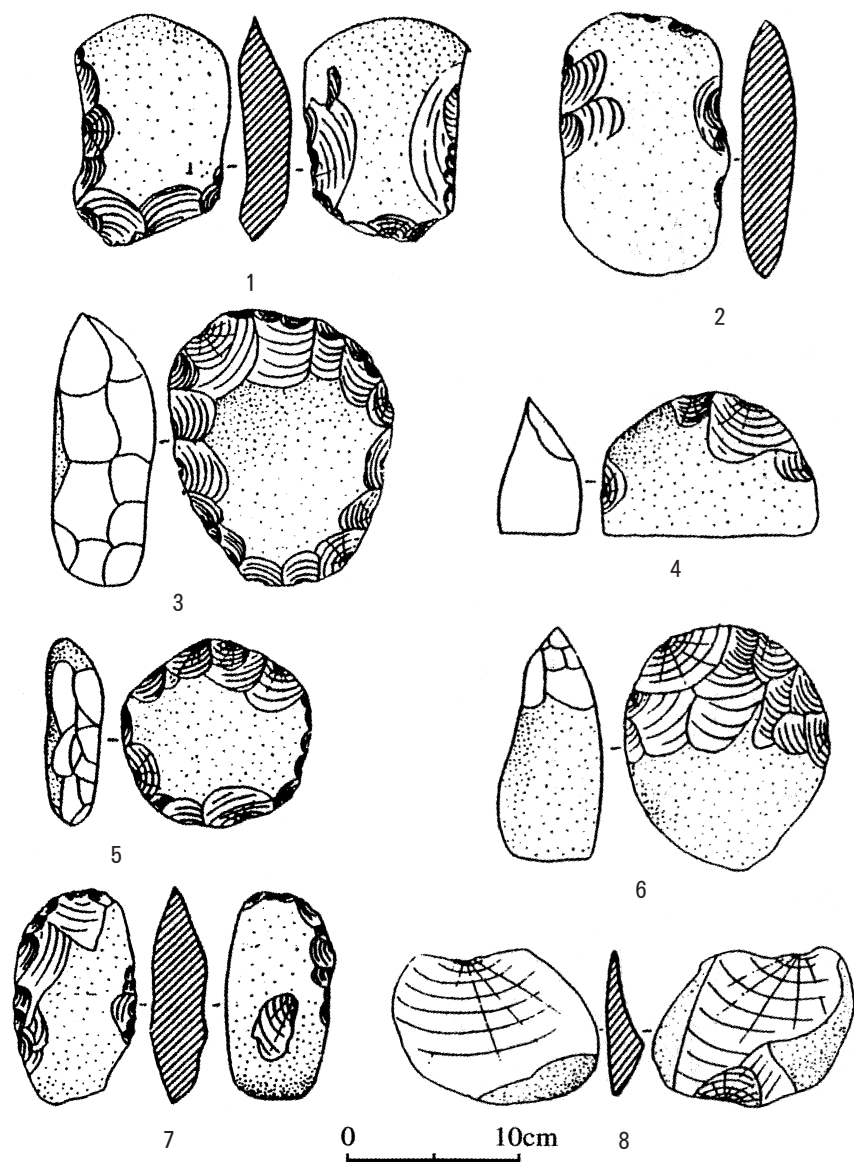
Bản vẽ 9: Công cụ đá cuội văn hoá Hoà Bình (di tích hang Xóm Trại)
(Nguồn: Hoàng Xuân Chinh, 1989, tr. 251-254)

図2 ホアビン文化の石器 (ソムチャイ洞穴)

ソイニュ遺跡グループ

ソイニュとは、35年前に発掘調査されたソイニュ洞穴の名である。このグループに属する最初の遺跡は、アンダーソン (J. G. Andersson) が60年前に発見し、研究した。しかし、この遺跡は忘れ去られ、あるいは注目されずにハロン (Ha Long) 文化に整理されてしまった。現在、ソイニュはひとつの文化である、という見解も存在している。

ソイニュ遺跡グループは、クアンニン省からハイフォン市までの領域で30遺跡が知られている。主要な分布域は、ハロン湾やバイトゥロン (Bai Tu Long) の石灰岩島の洞穴である。ほかに、カムハー (Cam Pha) 県、ハロン市、ホアインボー (Hoanh Bo)、ウオンビー (Uong Bi)、イエンフン



Ban vẽ 10: Công cụ đá nhóm di tích Soi Nhụ
1-2. Soi Nhụ; 3-6. Hà Giắt; 7-8. Eo Bùa
(Nguồn: Hà Văn Tấn, 1998, tr. 396)

図3 ソイニュ遺跡グループの石器

(Yen Hung) とハイフォン市のカットバー (Cat Ba) の海岸沿いの石灰岩洞穴が知られている。

文化層は、陸生・水生のタニシ類で作られ、また少しではあるが淡水の軟体動物、ほ乳類の骨があり、海の甲殻類もごく少数確認できる。

礫器、剥片、土器はソイニュ遺跡グループではあまりみられない。出土した礫器は、不定形なものである。石器製作技術は片面加工で小さく打ち割り、まれに定形にするために調整する場合もある。石器は石灰岩から作り出されているが、不定形であるため、自然の石灰岩片と区別するのがむずかしい (図3)。

ソイニュ文化の人は海岸近くに居住し、ホアビン文化やバクソン文化の人よりも海とのつながりが深い。主要な生業は淡水の軟体動物の採集であり、根茎や野菜、果実、海岸近くの森林動物の狩猟で

ある。ソイニュ地点でバクソン斧がみつかったため、彼らはバクソン人とも交流を持っていたと考えられる。

石器や製作技術の比較、また C 14 年代測定にもとづいて、ソイニュはホアビン文化やバクソン文化と平行して形成されたが、独立して存在し、その年代は 18,000～7,000 BP と考えられる。また、ソイニュ遺跡グループに分類された若干の遺跡は、ホアビン文化の遺跡であるとする意見もあり、この遺跡グループの研究はさらに深めていかねばならない。

バクソン文化

バクソン文化はおよそ 100 年前に発見され、研究が続けられている。

バクソン文化の分布域は、ホアビン文化の分布域よりもたいへんに狭く、ランソン省のバクソン県、ビンザー（Binh Gia）県、フュルン（Huu Lung）県、チーラン（Chi Lang）県、ヴァンクアン（Van Quan）県とターイグエン（Thai Nguyen）省のヴォーナイ（Vo Nhai）県である。バクソン山塊には多くの洞穴があり、人びとのほとんどがその山塊の南側に居住した。それは、この地域に多くの河川があり、石材と水産資源に恵まれているためである。バクソン山塊の南側やその縁の 54 の洞穴にバクソン人は居住した。遺跡の立地はホアビン文化のそれよりも低く、谷間から 3～7 m の高さに位置し、多くの方向に入口が向いており、遺跡面積は少なく、50 m² 以下である。

バクソン遺跡の文化層は石灰岩片を含む粘土であり、貝殻、獣骨、炭化物、墓址、石器や骨製品を含んでいる。



写真 3 バクソン文化の石器



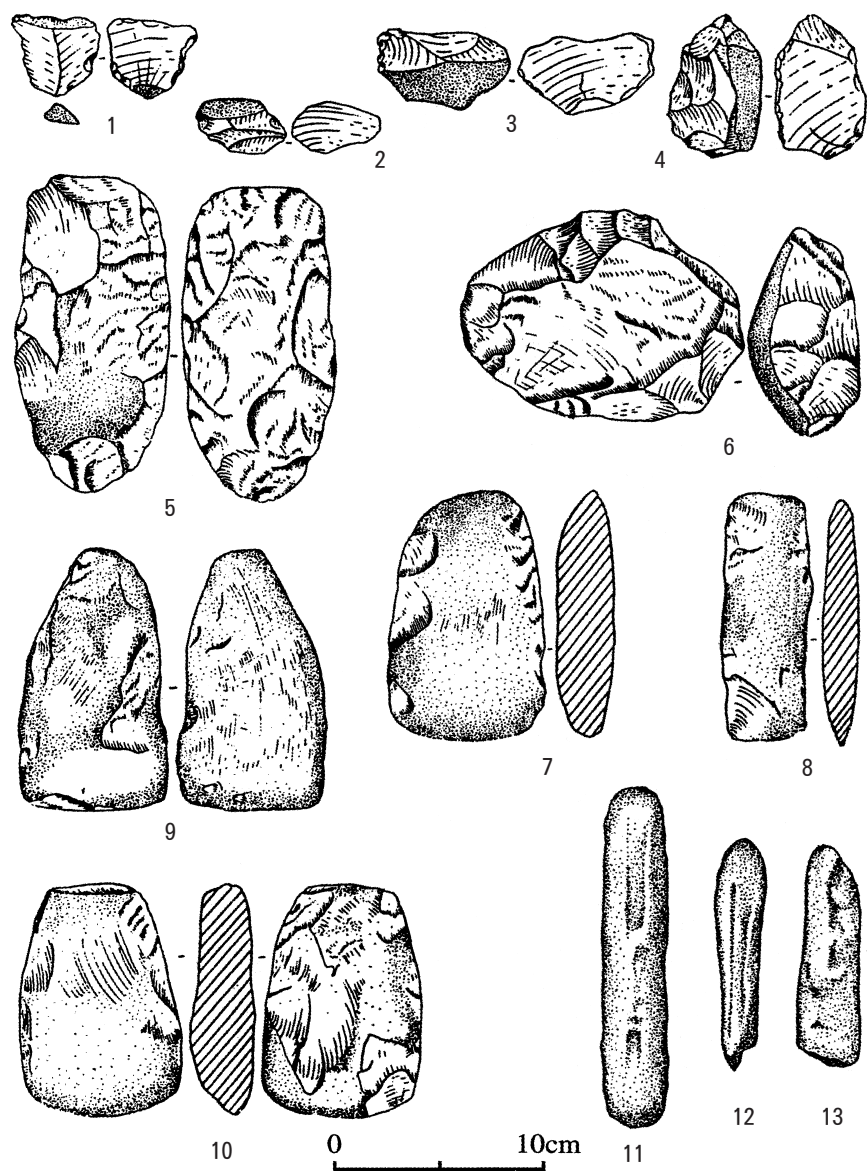
写真 4 バクソン文化の刃部磨製石器

動物遺体の主要なものは貝殻であり、それはタニシ類や陸産貝類である。貝殻は炭化し塊となっている。貝殻以外に獣骨が出土しており、シカやウシ、ブタ、クマ、テン、キツネ、サイ、イノシシ、カメ、甲殻類などである。これらは野生の獣骨であり、馴致された動物の骨は未検出である。

バクソン人は、ホアビン人と同じように河原石を採取し、その場で石器を製作した。バクソン石器は、ホアビンのそれよりも形態的、技術的に発展している（写真 3・4、図 4）。

バクソン文化の石器の典型的なものは皿形、杏仁形、三角形、長方形、そして楕円形の石器である。これらの石器はホアビンの石器と似ているがすべてにわたり優れている。ホアビンの短斧は、バクソン文化ではみられない。両面加工の石器の割合は、片面加工のそれよりも高い比率で出土する。

石器の打割技術はバクソン文化のなかではかなり普及している。バクソン人は、河原石を 2、3 分割あるいは 4 分割して製作した。彼らの技術はあらゆる形態の石器を作り出した。そのことは、ホアビン



Bản vẽ 11: Hiện vật đá văn hoá Bắc Sơn
1-4. Mảnh tước; 5-6. Công cụ ghè đẽo; 7-10. Công cụ mài lưỡi;
11-13. Dấu Bắc Sơn (Nguồn: Hà Văn Tấn, 1998, tr. 395)

図4 バクソン文化の遺物

文化と違い、バクソン文化のなかで剥片の割合が礫器よりも大きいことからわかる。剥片石器はバクソン文化の後半段階に普及する。

石器製作過程で出る破片や剥片の量は多く、ホアビン文化と比較して特徴的なことは調整された剥片の出現である。調整された三角形の剥片石器は、グオム技術のなかの石鏃形態から発生したものかもしれない。

バクソン斧、あるいは刃部磨製石器は、この文化の代表的な石器である。バクソン斧は、梯子形、長方形、楕円形、三角形など多くの形がある。梯子形と長方形の石斧は、他の形の石斧よりも多く出土している。また、石核から作られた刃部磨製石器は、石核の一部、あるいは完全に打割されたものに比べて少ない。バクソン斧は、長さが7 cm、幅が3 cm ほどの小さなものである。バクソン斧の出

現をベトナムにおける「新石器革命」の幕開けと考えている研究者もいる。

バクソン文化の石鋤は、近年の研究によって石斧から分離された。以前は、石鋤をバクソン斧と認定していたのである。バクソンの石鋤は少し湾曲し、刃は斜めになっており、石斧よりも大きめで数量的には少ない。この石器は土を掘り起こす道具であるが、石鋤を農業と結びつけることはできない。

「バクソニアン・マーク」とは、溝石のことで、小さく長く、平らな独特の形で片岩から作られたものである。石には磨くことによってできた溝がある（写真5）。溝は幅が0.3～0.8 cm、深さ0.1～0.3 cm、1 cmに達するものもみられる。このような溝石は、遺跡のなかで量的に最も多く出土する。溝石は時間軸上に大きな広がりを見せ、ホアビン文化のような新石器時代前期からバウチョー（Bau Tro）文化、ホアロック（Hoa Loc）文化、フングエン文化のような金属器時代初期まで確認できる。ベトナム以外では、香港や朝鮮、モンゴルなどの地域でもみられる。現在までのところ、バクソン溝石の機能はまだ確定していない。

石器以外に、バクソン人は骨製品を作った。骨製品はたいへんに少なく、また形態的に多様ではない。現在のところ斧、ノミ、キリなど20点ほどの検出がある。骨製品は磨かれ、注意深く削られ、なかには焼かれたものまである。

土器はたいへん少なく、54遺跡中18遺跡で確認されている。ホアビン文化の土器と同じように、バクソン文化の土器の起源や使用した人びとに関しては確定できていない（写真5）。

バクソン文化のなかで芸術痕跡はまだ少なく、十分な研究がなされていない。現在までのところ若干の作品が石や海産貝に刻まれている。それは、ビンザー（Binh Gia）の石の刻文であり、タカラガイ類である。ほかにコラニーがナーカー（Na Ca）遺跡で発見した人間の顔の輪郭が刻まれた石片と4本の枝分かれした刻線のある石片である。方形、長方形、六角形、人面が石片に線刻されている。

バクソン文化の人骨は、大部分がフランス人によって発見され、公表された。5遺跡（ビンザー、ドントゥオク（Dong Thuoc）、ケオフアイ（Keo Phay）、ハックキエム（Khac Kiem）、ランコム（Lang Cuom））で24の頭蓋骨が研究され、公表された。まだ発見数が少ないため、十分な研究がなされておらず、バクソン人の埋葬習俗については不明確である。

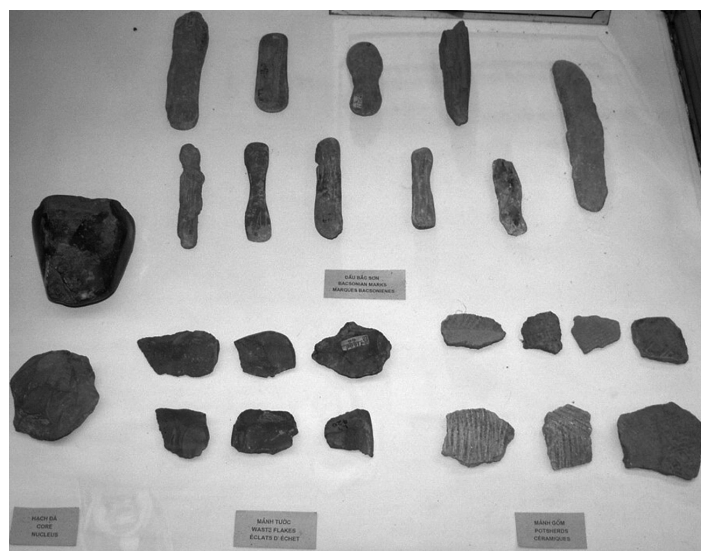


写真5 バクソン文化の溝石（上段）と出土土器

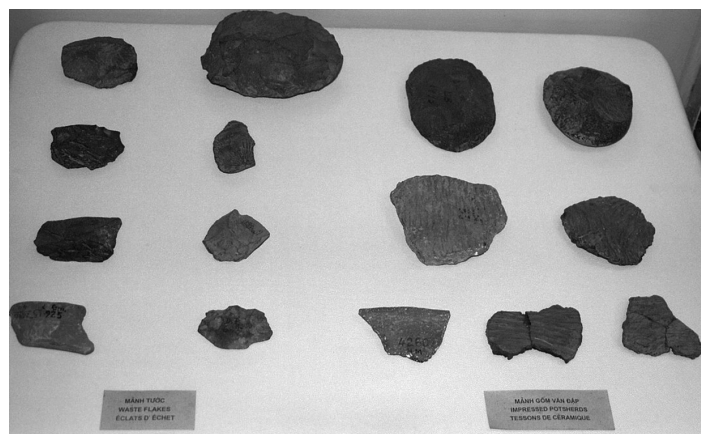


写真6 ホアビン文化の土器（左下段）

バクソン文化は、新石器時代前期で年代は 11,000～7,000 BP である。バクソン文化はソンヴィーとホアビンの礫器伝統とグオム剥片技術の伝統を受け入れ、継承して形成されたのであろう。

(解説)

旧石器時代終末から新石器時代前期に東南アジア大陸部全域からマレー半島、インドネシアのスマトラ島に至る広範囲に、ホアビン文化とよばれる礫器文化がみられる。一方、フィリピンやマレーシアのサバ (Sabah) 州などの島嶼部では、剥片石器文化が広がっていた。この時代に、東南アジアではふたつの文化が展開されていたのであった。

ベトナムのホアビン省の名を冠したホアビン文化を世界史のなかにどのように位置づけるか、ベトナムでは議論がつづいた。1975 年版の『考古学の基礎』は、ホアビン文化を中石器時代に位置づけていた。しかし、2008 年版の本書では、ホアビン文化を新石器時代と位置づけ、旧版と新版の大きな違いがみられる。

考古学における当初の時代区分の概念によると、旧石器時代は更新世に属し打製石器を伴い、新石器時代は完新世に属し、磨製石器を伴う時代と考えられていた。しかし、その後、農耕・牧畜のはじまりが人類の歴史にとって重要な変化であると認識されると、その変化をもって新石器時代とする考えが広がり、土器の出現もその重要なメルクマールになった。しかし、完新世に入っても農耕・牧畜を開始していない地域とその文化があり、それに対して「中石器」の名称が提唱され、ベトナムではその用語を採用し、ホアビン文化をその時代に位置づけていた時期があった。

新版では、この問題についてホアビン文化を中石器時代とする考え方、それを否定する考え方を紹介している。ホアビン文化の概念は、本書でも紹介されているようにフランス人研究者のコラニーによって提唱されたものである。そのとき、彼女はホアビン文化を三段階に設定し、ホアビンⅠ段階を後期旧石器、ホアビンⅡ段階を先新石器、そしてホアビンⅢ段階を新石器前期と位置づけた。そのⅡ段階をハ・ヴァン・タン教授が中石器時代ととらえたのである。その後、ベトナム考古学界では議論がつづき、1980 年代になるとホアビン文化を新石器時代前期に位置づける研究者が多くなった。その背景には、後期旧石器時代に属する 18,000～12,000 BP の遺跡が少なく、大多数の遺跡が 12,000～7,500 BP に入るからであった。現在までのところホアビン文化の最古の年代は、ソムチャイ (Xom Trai) 洞穴の 18,420 BP とランヴァイン (Lang Vanh) の 16,470 BP などである。そのため、12,000～7,500 BP に入る遺跡を典型的なホアビン文化ととらえ、磨製技術の出現と栽培化、土器の出現を考えている。栽培化と土器の出現は、この文化の後半段階と考える研究者が多い。

土器の存否について本書では、50 遺跡で土器片が検出されていると報告するが、確実にホアビン文化層にともなうものか断定することはむずかしく、本書の執筆者も確定を保留している。この問題について、グエン・キム・ズン (Nguyen Kim Dung) は、資料の再調査を実施し、土器が出土したという 50 遺跡のうち、9 遺跡が洞穴の底からで、5 遺跡が地表面で検出され、29 遺跡で土器の包含層を特定することができず、また土器片自体は、その後の段階の土器と明確に区分することができなかったという。その結果をうけ、ブイ・ヴィン (Bui Vinh) はホアビン文化での土器の存在を否定する。このように土器の存在を否定する研究者がいる一方、ベトナム歴史博物館ではホアビン文化展示ケースに土器を展示している (写真 6)。

近年、ベトナム北部と接する中国広西壮族自治区の甌皮岩洞穴や鯉魚嘴貝塚では、1 万年を超える

年代が測定された層から土器が出土しており、バクソン文化との関わり、あるいはホアビン文化での土器出現の問題についても新たな研究の手がかりがみえはじめ、どのように展開するのか興味深い。

ほかに、ホアビン文化段階での農耕の存否、あるいはホアビン文化とバクソン文化を時系列上に位置づける見解のほかに、同時に存在した一地域の文化として捉える見方もあり、ベトナム考古学界でも議論がつづいている。解明すべき考古学的課題がじつに多いのである。

ベトナム語によるホアビン文化の基本図書は、1967年にベトナム歴史博物館から刊行された *Nhung Hien Vat Tang Tru Tai Vien Bao Tang Lich Su Viet-Nam ve Van Hoa Hoa Binh* (ホアビン文化に関するベトナム歴史博物館収蔵遺物) と 1989年に考古学院から刊行された *Van Hoa Hoa Binh o Viet Nam* (ベトナムのホアビン文化) がある。また、バクソン文化の基本図書は、1969年にベトナム歴史博物館から刊行された *Nhung Hien Vat Tang Tru Tai Vien Bao Tang Lich Su Viet-Nam ve Van Hoa Bac Son* (バクソン文化に関するベトナム歴史博物館収蔵遺物) がある。

ホアビン文化の研究書として代表的なものに、1994年出版のチャン・クォック・チィ (Tran Quoc Tri) の *Cac Van Hoa Truoc Hoa Binh va Hoa Binh o Bac Dong Duong* (北インドシナにおけるホアビン文化とそれ以前の文化)、あるいは 2004年出版のグエン・カック・スウ (Nguyen Khac Su) と ヴー・テー・ロン (Vu The Long) 共著の *Moi Truong & Van Hoa Cuoi Pleistocene Dau Holocene o Bac Viet Nam* (ベトナム北部における更新世末から完新世初頭の環境と文化) がある。

バクソン文化の研究書として代表的なものに、2001年に刊行されたハー・フュ・ガー (Ha Huu Nga) の *Van Hoa Bac Son* (バクソン文化) がある。ほかに、ベトナム北部と南中国の関係を論じた チン・ナン・チュン (Trinh Nang Chung) の *Moi Quan He Van Hoa Thoi Tien Su Giua Bac Viet Nam va Nam Trung Quoc* (先史文化におけるベトナム北部と南中国の関係) が 2009年に出版されている。

参考文献

- 今村啓爾 2001 「狩猟採集生活の時代」『東南アジア史 1 原史東南アジア世界』29-54 頁、岩波書店。
- Bui Vinh 2004 “Cac Trung Tam Gom Tien Su Dau Tien o Viet Nam.” *Mot The Ky Khao Co Hoc Viet Nam Tap I*: 71-82. Nha Xuat Ban Khoa Hoc Xa Hoi.
- Nguyen Khac Su 2004 “Khao co hoc Thoi Dai Da Viet Nam Mot Tram Nam-Nua Trieu Nam.” *Mot The Ky Khao Co Hoc Viet Nam Tap I*: 21-42. Nha Xuat Ban Khoa Hoc Xa Hoi.
- Nguyen Kim Dung 1989 “Do Gom.” *Van Hoa Hoa Binh Viet Nam*: 86-95. Nha Xuat Ban Khoa Hoc Xa Hoi.

(きくち せいいち 歴史文化学科)